

コーヒーベルトと沖縄について

北緯25度から南緯25度の間に位置するコーヒー栽培に適した地帯のことです。
沖縄県はおよそ北緯24度から28度(本島はおよそ北緯26度)に位置しています。



沖縄県の第1次産業の課題解決・新たな産業育成

課題

- 耕作放棄地の存在
- 農業就業者の高齢化・後継者不足
- 沖縄県産農産物の競争力



解決策

- 耕作放棄地などを活用した栽培
- 沖縄県産コーヒーを新たな特産品へと育成

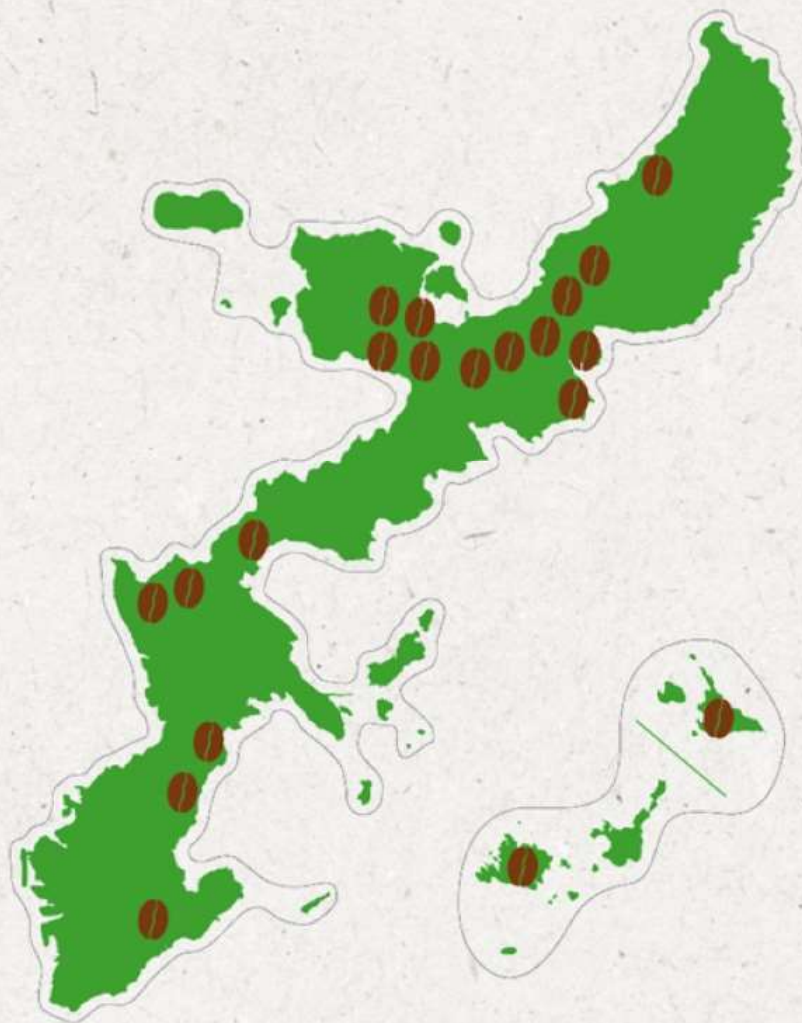


プロジェクト参画メンバー

プロジェクトを立ち上げた沖縄SVとともに
「ネスカフェ」はコーヒーの種や苗木、
栽培に関する技術やノウハウを提供しプロジェクトをリード



拡大する栽培ネットワーク



2025年現在、プロジェクトでの
栽培場所が20か所を突破
更なる栽培ネットワークの拡大を目指す

製品化も視野に入れた中長期的な計画

コーヒー豆の生産量拡大に伴い、沖縄県産のコーヒー豆や
コーヒー製品を新たな特産品にしていきます。

Step 1

沖縄の土壌、気候に適した品種や栽培方法の確立

Step 2

沖縄現地でのコーヒー豆の収穫体験や飲用

Step 3

イベントでの提供や、沖縄県内での商品(お土産)の販売

Step 4

全国向けに、幅広いチャネルでの商品の販売



グローバルな取り組みとして「NESCAFÉ PLAN 2030」を実行中

「ネスカフェ プラン」とは

2010年に世界のコーヒー生産者の支援と責任ある調達を目的に開始したグローバルな取り組み

- ・温室効果ガスの排出量削減
- ・農家の所得向上
- ・社会状況の改善

2030年までに

- ・再生農業を通じたコーヒー豆 50%調達
- ・温室効果ガス排出量 50%削減



直営実験開発農場 -適地の選定から移植、栽培



直営農場で
スタート

うるま市石川農場(耕作放棄地)の開拓
大宜味村大保農場の再生
台風6号(カヌン)の被害

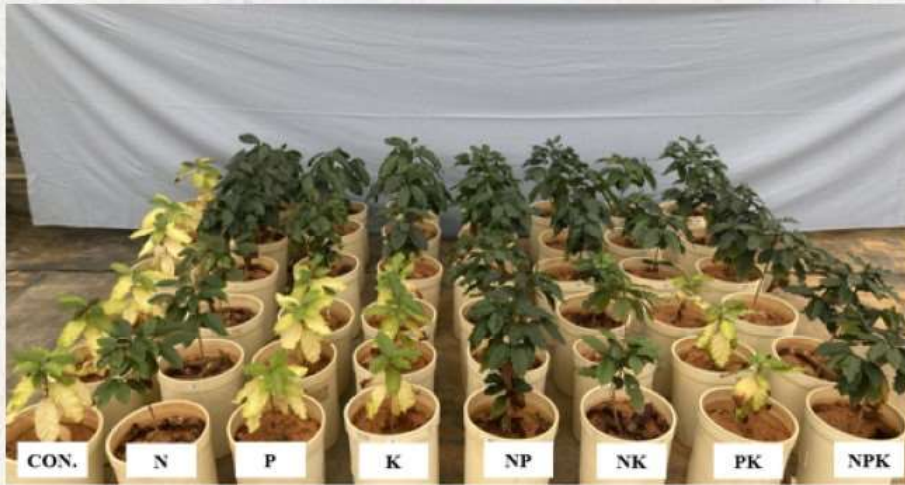
2022-2023年植え付けのハイブリッド種が結実
2025/2026シーズン試験収穫見込み

2019

2023

2025

プロジェクトメンバーとの取り組み-収穫量、品質の安定化に向けて



沖縄本島北部に分布する
土壌での肥料実験



琉球大学



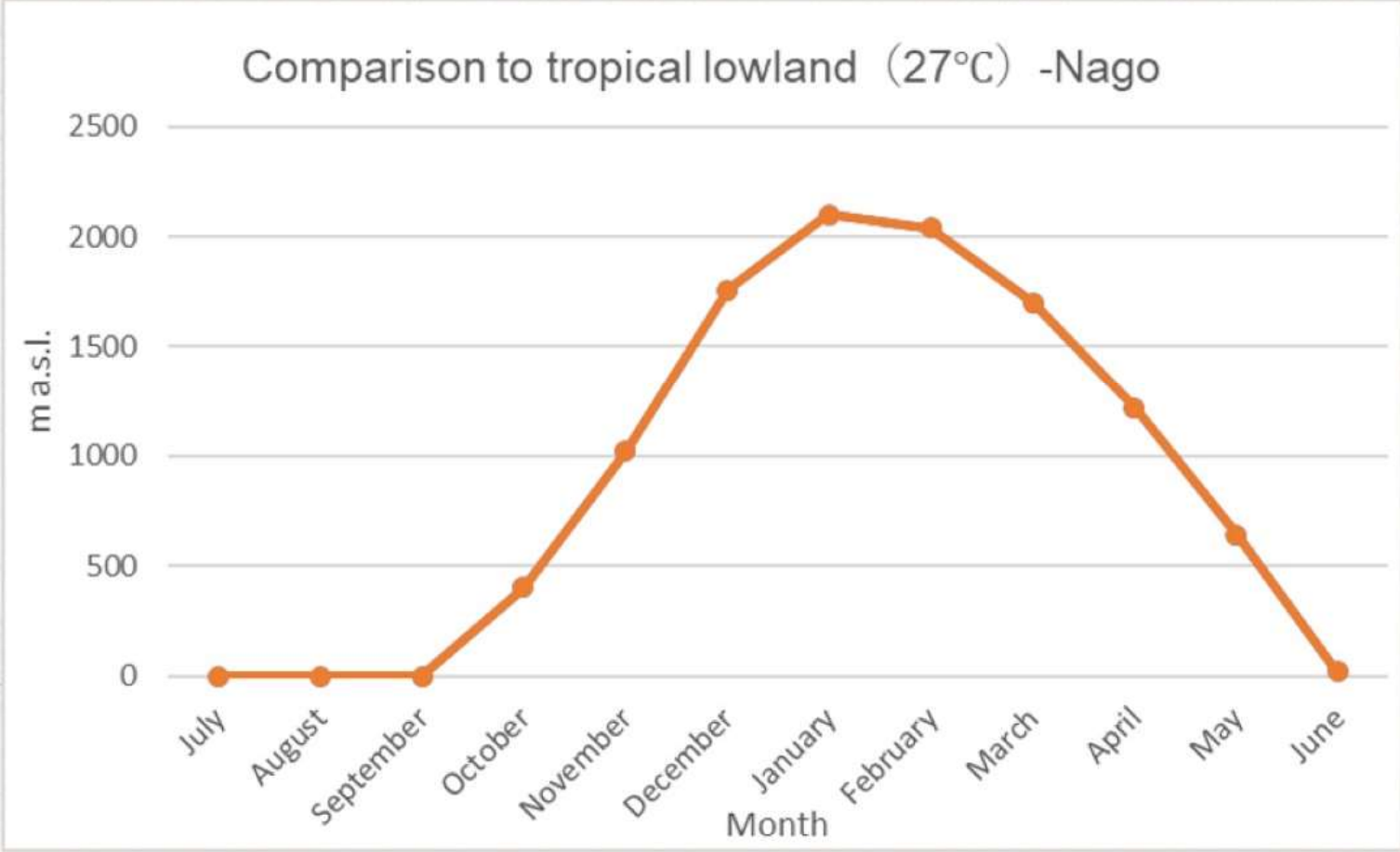
フィールドでの生育調査



協力農家



沖縄本島(名護市)の気候ーアラビカ種には暑く、ロブスタ種には寒い



0-1000m:ロブスタ種
1000-2000m: アラビカ種
>2000m:栽培不適



11月~4月: アラビカ種
5月~10月: ロブスタ種

*気象庁のデータをもとに気温の遞減率(-0.5°C/100m)で計算

北海道におけるさつまいも (由栗いも) の特産品づくり

そらち南さつまいもクラブ 川端祐平

由仁町・栗山町

- ・ 北海道の中心部空知地方の南側に位置する
- ・ 千歳空港から約30~40分、札幌から約1時間
- ・ 水稻を主体に種芋、玉ねぎ、ビート、カボチャ、長ねぎ、花きなど多種多品目栽培
- ・ 土質は粘土、黒ボク土など様々



始まり

- ▶ 2017年
「農産物で由仁町・栗山町の特産品を作り町おこし」
を目標に合同プロジェクトを立ち上げる
- ▶ さつまいも選定理由
家族が好きな野菜・道内のさつまいも産地を目指す
- ▶ 2018年
そらち南さつまいもクラブ設立



さつまいもブランド選定ポイント

▶ 品種選定

1. 北海道(由仁町・栗山町)の気候で収量が取れる

→収量がないと販売する量が確保できない、採算も合わない。

2. 食味の良い

→美味しいものを消費者の元に届けたい

品種選定

▶ 収量調査品種（8品種）

紅あずま・シルクスweet・安納芋・ベにはるか・黄金千貫
パープルsweetロード・ハロウィンsweet・高系14号

▶ 食味調査

町長・両町行政職員・天使大学生・レストランシェフを呼び
品評会イベントを開催



↓
収量トップ 紅あずま

食味トップ 紅あずま・シルクスweet（同一）

紅あずまをブランド品種に決定！！

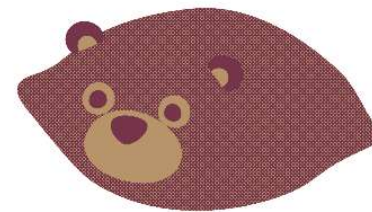
さつまいもブランド誕生

由仁 × 栗山 × さつまいも

ゆっくり育つ



由栗いも



PR活動



▶ 由仁町

こども園でさつまいも収穫・焼き芋体験

PR活動



▶ 栗山町

小学校の授業の一環として

作物の出来上がるまでから食べるまでの内容

PR活動



栗山町内 参加店

- 1 居酒屋おらが村
- 2 中仙道農園 パン工房 Riren
- 3 くりとくら
- 4 さわや
- 5 くりやまアンド・アム
- 6 料理と、借景。サメオト
- 7 三勝
- 8 くりやま温泉パラダイスヒルズ
- 9 高畑料理店
- 10 レストラン アース 栗山本店
- 11 魔法のらんぷ☆くりやま工場
- 12 くりやまコロッセ
- 13 プナナタッダ コーヒー
- 14 栗の木バー
- 20 ユニの湯
- 21 東京ホルモン
- 22 はらべこパンや
- 23 フルールド・オリーブ カンパニー

2町の飲食店が「ゆ栗いも」を使った料理でおもてなし。

ゆっくり 由栗いも Festival

2024 由仁 栗山 同時開催

スタンプラリー 2/14(土) → 3/1(日)

由仁町・栗山町の参加店を回ってスタンプを集めよう!!
そして「ゆ栗いも」の食品をゲットしよう!!

由仁町内 参加店

- 14 まんもす亭
- 15 YUNI-CAFE
- 16 かまど炊きごはん 米吉
- 17 Pazar Bazar
- 18 三好焼菓子店
- 19 Cafe Tanto

参加店のかわいい地図やメニュー、スタンプラリーの参加方法は、「ゆ栗いもフェスティバル」のページをご覧ください。

お問い合わせ先 / 川端 (080-1881-4073) ●主催 / そらち南さつまいもクラブ ●後援 / 由仁町・栗山町・そらち南農業協同組合 ●協賛 / 合同会社ベジラボ

由栗いもフェスティバル 特設HP <https://fex.google.com/view/yukokimmo>

▶ 両町

焼き芋イベント・飲食店スタンプラリーを開催

課題点

- ① 長期保管
- ② 販売組織の設置
- ③ 年間を通じたブランド認知

①長期保管

長期保管
で
食味向上

キュアリング
温度30~40度
湿度90%



①長期保管

施設がなく
長期保管できない！

そらち南さつまいもクラブ 推移

年度	人数	面積 (a)	収穫量 (t)
2017	6	5	1
2018	11	12	2
2019	13	30	4
2020	16	86	9
2021	17	280	50
2022	26	560	100
2023	30	800	150
2024	33	880	170
2025	38	990	190(見込み)

198倍増

190倍増

さつまいも保管

2017～2018年
ビニール・毛布



2019～2021年
JRコンテナ保管庫



2022年
栗山さつまいも倉庫



2023年
由仁さつまいも倉庫



2024年栗山2号倉庫、2025年栗山3号倉庫も稼働開始

② 販売組織の設置

- ▶ 任意団体では販売先から相手にされなかった
- ▶ クラブ員で話し合いを重ね、2021年にクラブ員3名を代表にした販売会社『**合同会社 ベジタボ**』を立ち上げる



大手スーパー仲卸業者との新たな取り組み・関東の大手百貨店での販売実績活動成果もあり、2022年『あぐり王国北海道NXST』『マツコの知らない世界』などに**北海道の新しい作物ブランド**として紹介され、現在北海道の大手スーパーにて由栗いもを販売している。

③年間を通したブランド認知

- ▶ さつまいも販売期間 10～3月（6ヶ月間）
- ▶ 年間を通して販売できないとブランドが埋もれていく
- ▶ 一年間さつまいも販売をするには保管庫の改良が必要（コスト高）
- ▶ メイン作物の農作業と重なってしまう



生芋がない時期は加工品でカバーしよう！

- ▶ ペーストの委託加工（原料の長期保存が可能）
- ▶ お土産商品の商品開発（お土産町内外に由栗いもをPRできる）

商品開発



2021年
タルトケーキ・焼き芋ジェラート
(北海道大学とのコラボ商品)



2022年
コンビニとのコラボで期間限定で
スイーツ・パン

商品開発



2023年
谷田製菓（栗山町）とのコラボで
さつまいも味のきびだんご『畑のキャラメル』

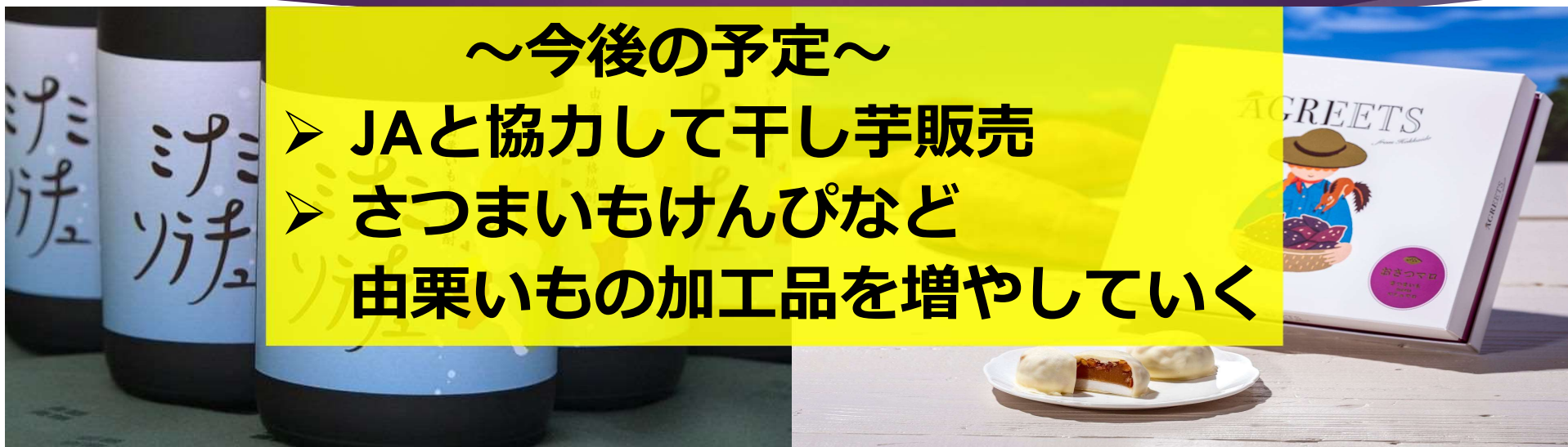
商品開発

～今後の予定～

- JAと協力して干し芋販売
- さつまいもけんぴなど
由栗いもの加工品を増やしていく

2025年札幌酒精（札幌市）に委託して由栗いも本格焼酎ミナミソラチュを販売開始
JAと協力して麴も由仁、栗山のお米を使用しオールそらち南産に。

さらに2025年は石屋製菓ともコラボし畑のスイーツAGREETS(アグリーツ)の第1弾として、由栗いものペーストを使用したおさつまるを全国の百貨店の催事で販売



まとめ

- ▶ 『**地域に愛されるブランド**』を目指している途中に**農業の面白さ・奥深さ**を再確認できた
- ▶ 足りない部分は助け合い、**得意なことを掛け合わせ協力することで可能性が広がる**
- ▶ **農業者以外もクラブに入会**
- ▶ **情報交換がスムーズになり横のつながりも強化された**

今後の展望

▶ そらち南さつまいもクラブ

①面積拡大・加工品開発し、オールシーズン『由栗いもの加工品』が

地域の特産品となり知名度を上げることで生まれ育った**地域に還元**

②加工品が売れば年間の収益にもなり、また応援してくれている町内外の小売店も潤うのでもっと力を入れていきたい！

▶ 合同会社 ベジタボ


保管特性を活かして地域の農閑期の仕事として、農家やその家族・従業員の

雇用を続けていきたい。さつまいもだけではなく由仁、栗山、北海道の新鮮野菜を消費者にアピールしていきたい。

『由仁町』 『栗山町』 両町の誇る特産品づくりを目指し

私達が楽しく活動することで





次世代に『繋がり合う農業』
面白さ・大切さを伝え

『農業の未来』を明るく照らす存在になりたい！

北海道の

『ネクスト赤いダイヤ』



ゆっくり
由 栗 い も
北海道熟成 さつまいも



ご清聴ありがとうございました

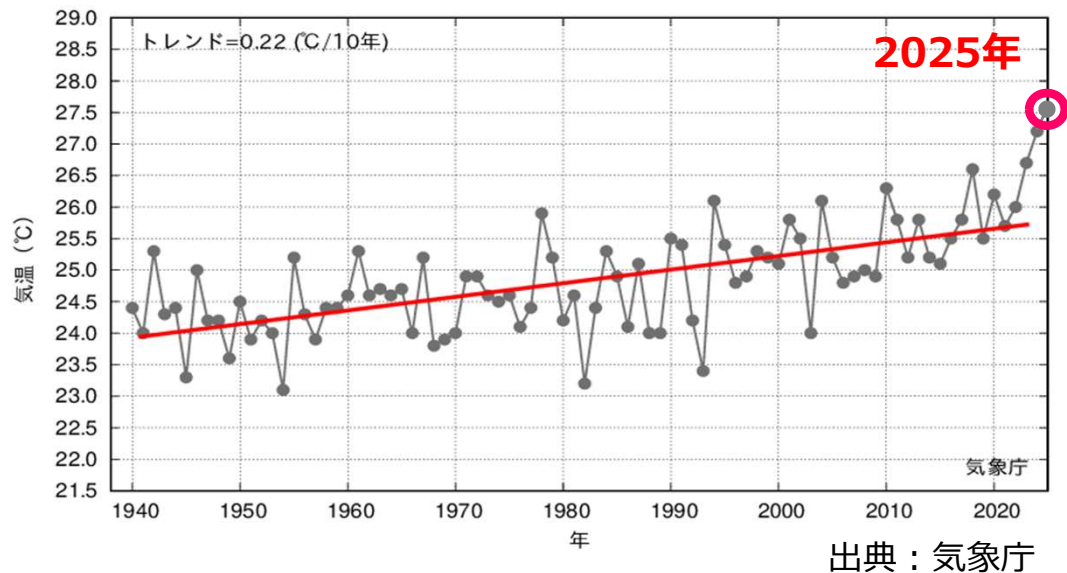
静岡県アボカド産地化プロジェクト

静岡県経済産業部農業戦略課

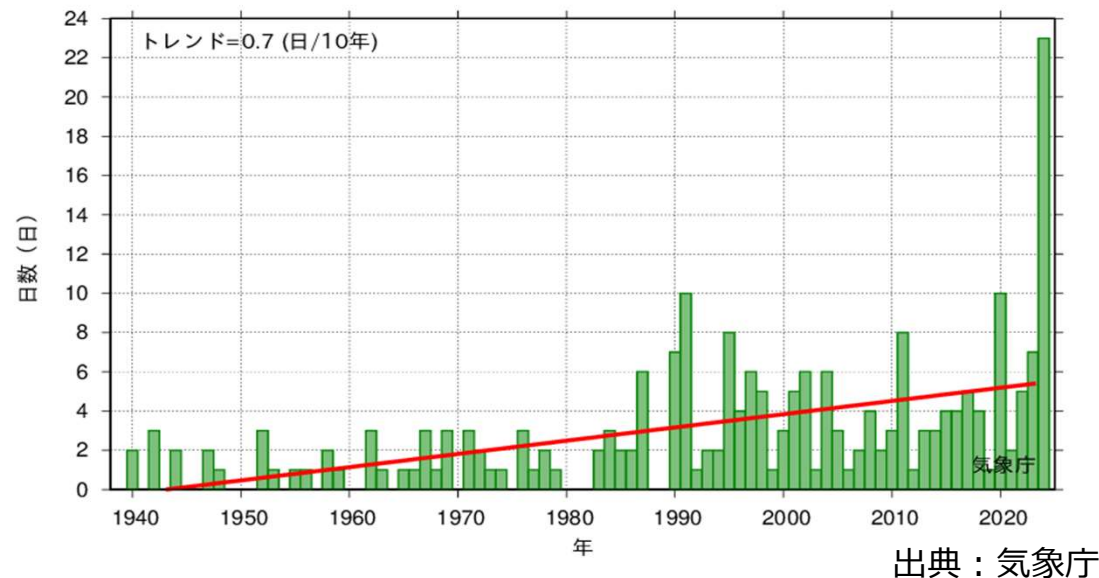
近年の気候変動の状況（気温）

*** 静岡の気温は年々上昇傾向、ここ3年は特に顕著**

静岡市の夏平均気温（6～8月）



静岡市の日平均気温35℃以上(猛暑日)の年間日数



- 静岡市の2025年の**夏平均気温**は、2023年および2024年を上回り統計開始以降、**最高値を記録（全国と同様）**
- **年平均気温は統計史上3番目**（1位：2024年、2位：2023年）
- 静岡市の2025年の猛暑日は23回と歴代最多となった。
8月6日には41.4℃という国内最高気温に迫る気温を記録

静岡県気候変動への取組（R7概要）

1 プラス面⇒新作物の導入

【しずおかアボカド産地化プロジェクト】

- 県の新たな取組を「**チャレンジ事業**」として事業化（R7-9）
- 栽培と流通の両面から産地化へアプローチ
- ⇒気候変動に適応し、かつ国内需要が見込まれる新たな品目として「**アボカド**」に着目

2 マイナス面⇒既存作物への悪影響に迅速対応

【気候変動専門対策チーム立上げ】

- 令和7年5月に研究・開発・普及指導が一体となったチームを起動
- ⇒本県作物の高温耐性品種や高温軽減技術の**開発・普及を加速化**
- 成果はどんどん現場へ、ワンストップで技術情報を発信**

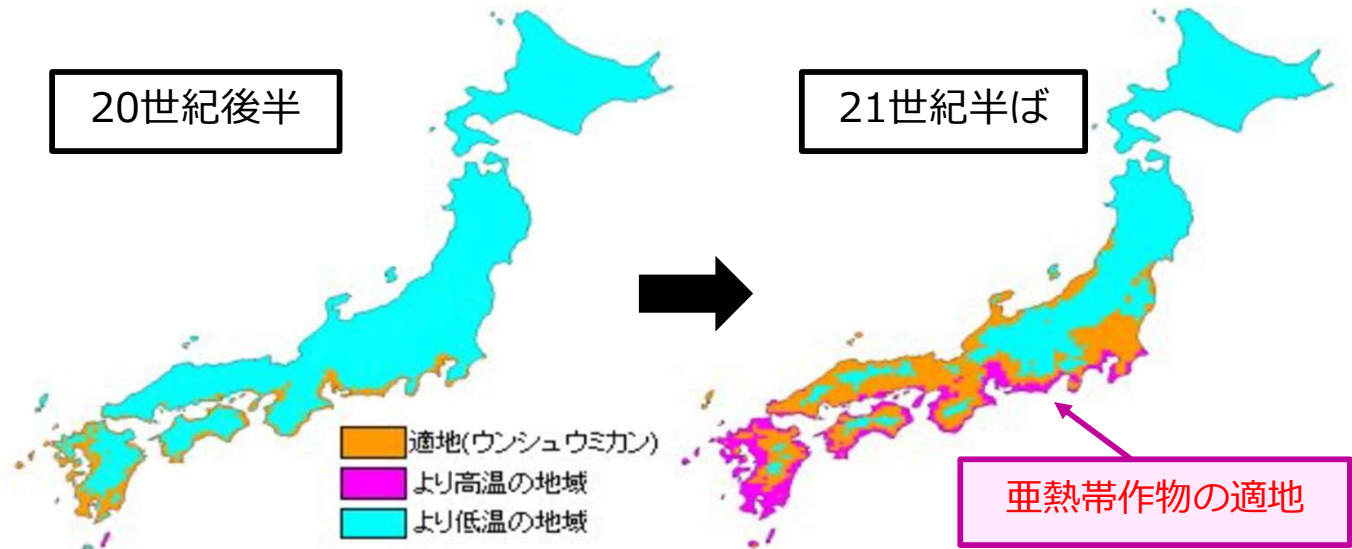
3 【緊急対応】災害への支援

- 令和7年9月に発生した台風15号による竜巻被害への対応
- ⇒**国の協力**を得ながら、被災農業者の早期復旧を後押し

しずおかアボカド産地化プロジェクト

1 現状・課題

- 気温上昇が続き、将来的に **本県が亜熱帯作物の栽培適地になる**
- 早期に対応することで **他県に先行可能**
- 県内各地で、個別の生産者がアボカドを栽培



地球温暖化によるリンゴ及びウンシュウミカン栽培適地の移動予測（農研機構）を元に作成

2 対応

- 亜熱帯作物のうち「**国内需要が拡大中**」で「**外国産と差別化が可能**」な **“アボカド”に着目!**
- 作期が異なる **茶との新たな複合経営作物**にもなる可能性!

(収穫期＝繁忙期)

作物	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
茶		摘採										
アボカド							収穫					

▲茶とアボカドは繁忙期が分散

<アボカドの国内市場>

1988年 2020年
 輸入量： 3千トン 8万トン
 輸入額： 10億円 250億円

輸入元：
メキシコ、ペルー
 消費量のうち
国産シェア0.02%



30年で25倍!

<アボカドの栄養成分・調理法>

- ・ **世界一栄養価の高い果物**（ギネスブック認定）
- ・ **悪玉コレステロール減らし、動脈硬化を防ぐ「オレイン酸」が豊富!**
- ・ 通称「森のバター」
- ・ **アボカドに合わない料理は無い**
 （「365日アボカドの本」著者）



▲アボカドの木と果実

しずおかアボカド産地化プロジェクト

1 概要

- ・気候変動により栽培可能な作物が拡大しており、アボカドの産地化にチャレンジする

2 目的

- ・新たな作物としてアボカドの導入・産地化を進めるため、栽培技術の確立を目指す
- ・安定的な販路確保に向けた取組を推進する

栽培実証・ワーキンググループ

- ・生産者、大学、企業、県（農林技術研究所）
- 県内のアボカド栽培園地で栽培を実証し、普及に向けた栽培技術確立

情報共有

流通ワーキンググループ

- ・流通事業者、外食産業、企業
- 熟度判定技術開発
- 販売戦略の明確化（ブランド化）

県（県庁、農林事務所、研究所ほか）

<県の事業スケジュール（想定）>

区分	令和7年度	令和8年度	令和9年度
アボカドの栽培技術の確立	調査・研究	調査・研究 マニュアル作成	生産拡大
県産アボカドの流通チャンネルの確立	・ AIによる熟度判定技術開発 ・ ワーキングによる販売戦略の検討		イベントでのPR

栽培：しずおかアボカド産地化プロジェクト

栽培技術の確立

【課題】 安定生産技術が確立されていない

- ・ 冬の寒さによる苗木枯れ
- ・ 開花は非常に多いが着果量が不安定
- ・ 収穫適期が不明

【取組内容】

- ・ 静岡県内の栽培データ収集
（県内園地で着果量、作業時間等を調査中）
- ・ 幼木の生存率向上技術（寒さ対策）の開発
- ・ 収穫量の安定技術の開発
（せん定方法、土壌条件の検討）

生産者、大学、民間事業者等と協力し、
栽培マニュアルを作成



樹上のアボカド

栽培：しずおかアボカド産地化プロジェクト

栽培：既存のアボカド生産園地での栽培データの収集

項目	
主な募集条件	<ul style="list-style-type: none">静岡県内でアボカド栽培に取り組む農業従事者で、令和7年度中に結実する樹を露地栽培している方今後継続してアボカドの栽培規模拡大に取り組む意欲がある方本調査データを、県がホームページ等にて公表する栽培マニュアルへ掲載することに同意いただける方 など
調査内容	ア 調査票への回答 イ アに加えて、県が実施する気温調査への協力
応募期間	令和7年5月2日（金）から令和7年6月6日（金）まで
募集事業者数	(1) アの調査 20事業者程度 (2) イの調査 7事業者程度（農林事務所1エリアにつき1者程度）

流通：しずおかアボカド産地化プロジェクト

流通チャンネルの確立

【現状と課題】 収益力のある販売が不明確

- ・ 国産アボカドとして付加価値のある高単価での販売
- ・ 国産は流通量が少なく、個人単位での売買が主流
- ・ 産地化できる安定した単価・流通経路の確保



【取組内容】

- ・ 販売ターゲットを明確化
(消費者へのWEBアンケート、流通事業者への予備調査を実施中)
- ・ 流通事業者、消費者へのPR
- ・ 静岡産アボカドの価値向上



販売戦略の構築

イベント：しずおかアボカド産地化プロジェクト

キックオフフォーラム

- ・令和7年5月28日に開催
- ・アボカドの基礎知識の普及を目的として、静岡大学教授や県内生産者による栽培事例を紹介
- ・県内外の生産者、JA、行政等120名が出席（満席）



メールマガジン「しずかド通信」

- ・アボカドに関心のある静岡県民（生産者・消費者）を対象に、月1回程度メールマガジンを発行
- ・現在会員数約230名（生産者、消費者、流通事業者、加工業者等）
- ・これまでにアボカド栽培の簡単なワンポイントやアボカドの調理レシピ等を配信

気候変動専門対策チーム（研究開発分野）

研究課題：気象変動リスクを軽減する対策技術の開発

* 県独自のプロジェクト研究（政策課題指定枠）として緊急課題化（R7-8）

県特産品に**高温被害**が発生



高温で花芽分化が遅れる



一等米比率の低下

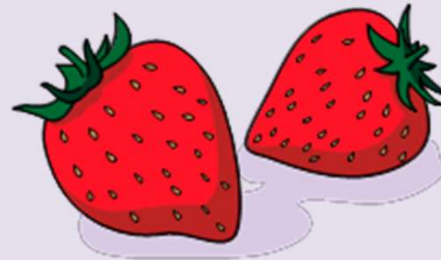


需要期に出荷できない

ワサビ 苗が暑さで枯死

【イチゴ新品種の開発】

夏季高温耐性有するイチゴ



【水稻の品質向上】

出穂期の施肥時期・施肥量



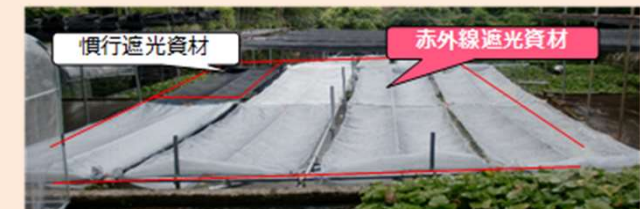
【施設花きの高温対策】

遮熱剤塗布と既存技術の組合せ



【ワサビ苗の枯死対策】

選択的遮光が可能な
遮熱資材の現地実証



気候変動専門対策チーム（普及指導分野）

◆ 「暑さ対策事例集」と「品目別高温対策技術」を作成

①暑さ対策事例集

生産者が現場で実践している高温対策事例
(令和8年夏に向け、第2弾を準備中)

②品目別高温対策技術

品目ごとの高温に対する影響と対策

◆ 農林技術研究所の高温対策研究の成果

を取りまとめた「施設園芸における高温対策技術集」公開



農畜産業における暑さ対策事例集

品目別高温対策技術

施設園芸における高温対策技術集

高冷地への山上げ栽培
わさび苗 沼津市、三島市、御殿場市、富士宮市

栽培概要
農研花き流通センター施設さび苗部会では、夏の暑き月間、わさび苗生産を標高900m以上の山形山頂野村ハウス(4.20坪、7棟)で山上げ栽培を実施している。

導入技術
技術概要
● 夏の3ヶ月間、標高900m以上の山形山頂野村ハウスにおいて、わさび苗の育苗を実施している(図1、図2)。

経費
● 材料調達代(長泉産→御殿場)
710円×1袋×30日(3ヶ月間、3日に1回) = 42,600円
燃料代(400円/1時間×30日)×30日 = 54,000円
人件費 2,000円×7時間×30日 = 420,000円
電気代 = 100,000円
合計 616,600円
● 電気代(燃料代と面積あたり) 25% = 154,150円

導入のきっかけ
● 1次産苗部会は、静岡県山形産産物組合からわさび苗生産を委託され、育苗及び秋苗の生産に取り組んでいる。
● わさびは強い日光を好む植物であるため、気温が25℃以上となる夏から秋にかけての育苗・栽培は難しく、近年の猛暑ではかなりの苗生産が難しくなっている。
● 農研花き流通センターマーケット部会では山形県山頂野村で山上げ栽培を行っており、施設に余裕があったため、わさび苗についても山上げ栽培に取り組んだ。

工夫している点
● 育苗を効率化してハウス内の温度を調整するとともに、遮光資材を設置している。
● 育苗期間を短くする。
● 水かき頻度を3日に1回を減らしている。

具体的な成果(収量及び品質等)及び生産者のコメント

収穫
● 栽培期間の平均において、夏にはほとんどわさび苗が育ちませんが、山上げ栽培では7割ト1割の90%~70%が収穫可能である。

品質
● 暑さの影響は全くないわけではないが、納品基準(根幹の形成、葉の枚数、茎の太さ)を満たすものを生産できている(図3)。

費用対効果
● 1本当たり10以上の山上げ栽培費は15円程度で、苗価格が通常期に比べ20円高ければ、利益に生産が可能である。
● 秋苗は静岡県内の平地では栽培が困難であり、需要がある秋苗生産のためには山上げによる生産が有効となっている。

その他コメント
● 2024年7月~9月に行う日平均気温は、山上げ(野村)では平均(静岡県南東部地域)に比べて4.8~5.9℃低く、25℃以下であった(図4)(農産部調査)。
● 山上げと育苗、水かき等の作業により、秋苗の需要の高い時期に向けたわさび苗の供給に大きく貢献できている。

写真・グラフ等

図1 山上げハウスの様子(左:ハウス全体、右:ハウス内部)

図2 わさび苗栽培の様子 図3 出荷用のわさび苗

図4 山上げ地域(山形県山頂野村)と県内産地(三島市)における2024年夏季の日平均気温、日照時間、日照総量(時間)の推移

品目別高温対策技術 令和7年6月13日 (農産部調査)

1 暑害
令和7年5月20日(梅雨)の2か月半程度は、曇雨が続いており、6月からの2か月間は強い空気に伴って雨が降る。平均気温は年より高い見込みと懸念されている。今後、本格的な夏になると、気温はさらに上昇し、高温による農産物の生産や収穫等の影響が懸念されるため、気象情報に注視するとともに、以下に品目別の暑害対策について取りまとめ、生産者や関係機関に対して提供・活用する。

2 栽培期間中の技術対策

品目	想定される影響	対策
施設園芸(野菜・花き)	● 葉面乾燥 ● 根腐病発生 ● 花冠萎縮 ● 着色不良 ● 果実、根の品質不良 ● 生育の遅延	【対応】 ● 施設内の気温上昇を抑えるため、窓や出入り口の開口部はなるべく閉め、換気を抑制する。 ● ハウス内の湿度を低減するために遮光カーテンを巻く。また、遮光・遮熱対策を併せて実施する。 ● 水管理 ● 水不足による生育不良を防止するため、定期的な高気圧の空気循環による水不足を防止する。 ● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。 ● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。 ● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。 ● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。
畜産(鶏)	● 熱中症 ● 採食量減少 ● 産卵率低下 ● 死亡率増加	【対応】 ● 施設内の気温上昇を抑えるため、窓や出入り口の開口部はなるべく閉め、換気を抑制する。 ● ハウス内の湿度を低減するために遮光カーテンを巻く。また、遮光・遮熱対策を併せて実施する。 ● 水管理 ● 水不足による生育不良を防止するため、定期的な高気圧の空気循環による水不足を防止する。 ● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。 ● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。 ● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。
水稲	● 葉面乾燥 ● 根腐病発生 ● 花冠萎縮 ● 着色不良 ● 果実、根の品質不良 ● 生育の遅延	【対応】 ● 施設内の気温上昇を抑えるため、窓や出入り口の開口部はなるべく閉め、換気を抑制する。 ● ハウス内の湿度を低減するために遮光カーテンを巻く。また、遮光・遮熱対策を併せて実施する。 ● 水管理 ● 水不足による生育不良を防止するため、定期的な高気圧の空気循環による水不足を防止する。 ● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。 ● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。 ● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。

施設園芸における高温対策技術集

【温室の形状 縁が高い温室は涼しい、窓が大きい温室は涼しい、円屋根より山型温室の方が涼しい】

対策

1 暑害
● 施設内の気温上昇を抑えるため、窓や出入り口の開口部はなるべく閉め、換気を抑制する。
● ハウス内の湿度を低減するために遮光カーテンを巻く。また、遮光・遮熱対策を併せて実施する。
● 水管理
● 水不足による生育不良を防止するため、定期的な高気圧の空気循環による水不足を防止する。
● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。
● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。
● かん水は、早朝・夕方に実施し、過湿を防止する。

2 栽培期間中の技術対策

施設園芸(野菜・花き)
● 葉面乾燥
● 根腐病発生
● 花冠萎縮
● 着色不良
● 果実、根の品質不良
● 生育の遅延

畜産(鶏)
● 熱中症
● 採食量減少
● 産卵率低下
● 死亡率増加

水稲
● 葉面乾燥
● 根腐病発生
● 花冠萎縮
● 着色不良
● 果実、根の品質不良
● 生育の遅延

ご清聴ありがとうございました

新たな特産品「京おくら」 産地づくりの取組



[あぐり京都](#)

京都乙訓地域の概要

【地域の概要】

- ✓ 京都市、向日市、長岡京市、大山崎町の3市1町で構成
- ✓ 典型的な**都市農業**
- ✓ **個別出荷**による**少量多品目生産**が主流で、農協共販出荷は少ない
- ✓ **京の伝統野菜、京のブランド産品**等として有利販売



賀茂なす



伏見とうがらし



九条ねぎ

新規品目導入の背景

【従来品目の課題】



ナスは暑さによる花落ち、ボケ果の発生で収量・品質低下…
重量がある上に、パイプの設置などの作業が大変…
新規の生産者には剪定のポイントなど技術習得が困難…



夏ネギは暑さで重量不足、虫害多発
品質のよいものを作ることが難しく、単価が低い…

【新規品目の検討】

- ✓ 夏の暑さに強い
- ✓ 重労働が少ない
- ✓ 高単価が見込める
- ✓ 低コストで始められる
(骨材不要)



オクラ！



産地の課題と取組内容

【取組開始時の状況】

- ✓ オクラを本格的に栽培したことのある部会員が少ない
- ✓ 市場ニーズに対して、**産地規模が小さい**
- ✓ 盛夏期の**収量が不安定**

【普及センターの取組内容】

- 1 JA等関係機関と連携した支援と体制の構築
→ 生産者の技術向上や生産安定を図るため、関係機関相互が強く連携

関係機関との連携

- 2 新規生産者の部会加入促進と定着
→ 産地強化にむけた部会活動の活性化支援

コーディネート機能の発揮

- 3 生産安定・省力化
→ 現地実証活動による品種の提案

技術的支援

1 生産者の技術向上や生産安定を図るため、関係機関相互が強く連携

(1) 関係機関の役割分担の明確化

- ✓ 新たにできた部会に対するサポート体制を構築するため、**関係機関の役割を整理**
- ✓ 令和6年度からは協議会を結成し**グリサポ事業**を活用した持続的な産地づくりを推進



- ✓ 令和5年度には、「**京おくら技術者会議**」を設置し、毎月の情報交換と進捗管理を実施
- ✓ **迅速な情報発信**や計画的な**新規生産者候補の選定・勧誘**が可能に

1 生産者の技術向上や生産安定を図るため、関係機関相互が強く連携

(2) 合同巡回の実施や現地実証ほでの栽培検討会等の開催

- ✓ 「京おくら栽培ごよみ」や「オクラの病害虫写真集」の作成と栽培管理の説明
- ✓ JAや京都市と連携し、月に1回以上の合同巡回を実施、全生産者を訪問

【京おくら栽培ごよみ】

【合同巡回】

京おくら栽培ごよみ

京都中央農業協同組合
京都乙訓農業改良普及センター

月	年間栽培スケジュール												収穫の 日数																					
	3月			4月			5月			6月				7月			8月			9月			10月			11月								
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
4月栽培	1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			4.播種、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			5.定植、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			75日
5月栽培	1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			4.播種、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			5.定植、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			70日			
6月栽培	1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			4.播種、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			5.定植、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			65日			
7月栽培	1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			4.播種、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			5.定植、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			60日			
8月栽培	1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			4.播種、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			5.定植、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			60日			
9月栽培	1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			4.播種、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			5.定植、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			60日			
10月栽培	1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			4.播種、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			5.定植、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			55日			
11月栽培	1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			1.まづくり 2.基礎肥(基肥) 3.マルチ			4.播種、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			5.定植、5.定植、 6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			6.病害虫防除 7.追肥と灌水、8.収穫			50日			

【栽培マニュアル】
1.まづくり～3月(播種の2～4週間)に準備(表1を参照)
-1畝あたり「JA連続」約200g(1畝約15g)、「セルカ」10～20g(目標pH5.5)

商品名	N	P	K	水
JA連続	2.25	1.25	0.64	
セルカ	方半箱が原料			
セルカ5-5-15	15	10	13	

2.マルチ 基礎肥後、黒マルチを被覆し、下図のように播種穴を開ける。
-前期の過播は効果的な収穫作業のため、60cm以上が望ましい。
-マルチは基礎肥後、降雨があり、解肥できる程度の水分で被覆(土を被ってヒビが入る程度が理想)

3.播種 1.1畝あたり、0.02畝(4～5粒播き)の種子が必要。種皮が硬く、吸水性が悪いので、1粒浸漬後の選別・播種で発芽が揃う。株間と播種粒数は表2を目安にし、1cm程度の深さに播種し、乾き具合で灌水を行う。
4.月の直播は低温対策のため、トンネルやべた掛け設置を行う。

5.定植 セルトレイ育苗(50穴、72穴)の場合、ハウス内で播種し、育苗日数25～30日で定植する。
6.病害虫防除(播種～生育初期、主に5～6月)
ネキリムシの発生が多々見られる場合は、播種時または定植時にダイアジノン粒剤を上播(表裏散)等(写真1)。(使用回数は収穫開始30日前まで2回以内)
茎枯病(疫病)は5月下旬から発生が見られるので、排水対策と灌水抑制での予防散布が必要(写真2)。(カスモンポドローなら収穫開始7日前まで3回以内)

7.追肥と灌水 5月下旬から生育状況(図2)を参照し、連日または1～2回程度灌水・追肥(化成肥料)にて1畝あたり40gが目安。生育の遅れが見ると、収穫まで2週間程度が経過するので、こまめに灌水・追肥を行う。降雨後には降雨がなく、乾燥が続く場合は、追肥灌水を行う。
※収穫 気温の低い日に、規格サイズになった実を収穫する。収穫のピーク時は、早摘と夕方の2回収穫が望ましい。

8.草刈り 別添の出荷規格より確認し、雑草を行い、JA京中央の集荷所へ持ち込む
※特殊処理 収穫後、草刈り機やフレールモア等で地上部を取り除きすくむ。根は地中に残るので取り除く必要がある

【草刈り判断と標準】
摘刈は収穫前の1～2回の摘刈を、それから下旬の摘刈まで。摘刈するまで摘刈がよくなり、摘刈の後の予防や収穫時の作業時の労力の軽減に効果的であると見られる。

図2 草刈り判断と標準の目安(参考マニュアルより)

※注意 5月以降、摘刈が揃えば、除草剤や農薬が確認された上で、摘刈はなるべく遅く、生長点の葉は3～4枚までに残す。

4月9日(1月発行)



生産者が**疑問や悩みを直接確認**
できる機会が増え、好評！

1 生産者の技術向上や生産安定を図るため、関係機関相互が強く連携

(2) 合同巡回の実施や現地実証ほでの栽培検討会等の開催

- ✓ 出荷目合わせ研修会の開催
- ✓ 現地実証ほでの栽培検討会の開催

【出荷目合わせ研修会】



JAは、出荷規格や調製方法について、実演を交えて説明

【栽培検討会】



調査結果を踏まえ、作型拡大や省力化技術について生産者と意見交換

普及センターは、病害虫対策や今後の栽培管理等について説明



1 生産者の技術向上や生産安定を図るため、関係機関相互が強く連携

(3) グリサポ事業を活用した実証試験

- ✓ **有機BB肥料**や**硫黄コーティング肥料**による化学肥料削減
- ✓ 高単価が見込める早期出荷に向けた**水封マルチと固化培土**



有機BB肥料でも慣行肥料と同程度の収量確保
硫黄コーティング肥料で追肥削減



(提供：JA京都中央)

トンネル内の水封マルチで地温を高め、初期生育を確保
固化培土で育苗期間を短縮

1 生産者の技術向上や生産安定を図るため、関係機関相互が強く連携

- (4) 各生産者の「栽培管理記録カード」の作成
- (5) 「京おくら通信」を活用した情報発信

【栽培管理記録カード】

R5京おくら生産者カード（生育初期～中期）

■生産者名（栽培地域）： _____

■栽培の概要

①土づくり：
「JA活緑」約200kg → ___月 ___日施用
「セルカ」10～20kg（目標pH6.5） → ___月 ___日施用
★その他資材があれば、 _____

②施肥（基肥）：
「ふあいとエース1号」8～10kg → ___月 ___日施用
★その他資材があれば、 _____

③マルチ：黒、シルバー、生分解性、その他（ _____ ）

④播種：
1穴 ___粒 → ___月 ___日播種
株間 ___cm、条間 ___cm
トンネル（有・無）、べた掛け（有・無）
畝幅 ___m、畝長 ___m、畝数 ___本、
栽培面積 ___㎡、株数 ___株

⑤定植：セルトレイ育苗 → ___月 ___日播種 → ___月 ___日定植

ほ場準備から収穫・
出荷まで**栽培工程別**
に改善点が判明

播種から後片付けまで、
栽培管理のポイント
をタイムリーに発信

【京おくら通信】



✓ きめ細かな個別指導対応や情報発信により、**部会全体の栽培技術がレベルアップ！**

2 産地強化に向けた部会活動の活性化支援

- (1) 部会員対象のアンケート調査による産地の問題抽出と対策の検討
 - (2) 新規生産者加入や個別面積拡大に向けた、経営指標の作成
- ✓ 栽培面積別(10a/5a/3a)の経営指標を作成



アンケート調査や経営指標の作成を通じて、出荷調製作業が作業時間全体の半分以上を占め、面積拡大のボトルネックになっていることが分かった

さらなる産地拡大に向けて農福連携を活用できないか…

- ✓ 「グリーンな栽培体系への転換サポート」事業を活用した新たな産地戦略を検討
- ✓ 農福連携による出荷調製作業のアウトソースを検討する契機に

2 産地強化に向けた部会活動の活性化支援

(3) 農福連携による経営改善(発展)に向けた支援

- ✓ 管内の福祉事業所と袋詰め等の作業を委託したい生産者のマッチングの場を提供



京おくら技術者会議で
福祉事業所向け選別・
袋詰め作業マニュアル
を作成

農福連携研修会において
農業者と福祉事業所が
対面で作業委託について
話し合う場を設定



- ✓ 令和7年度は5名の生産者が農福連携に取り組んだ

3 現地実証活動による生産安定に係る品種の提案

夏期の高温少雨に強い品種の選定

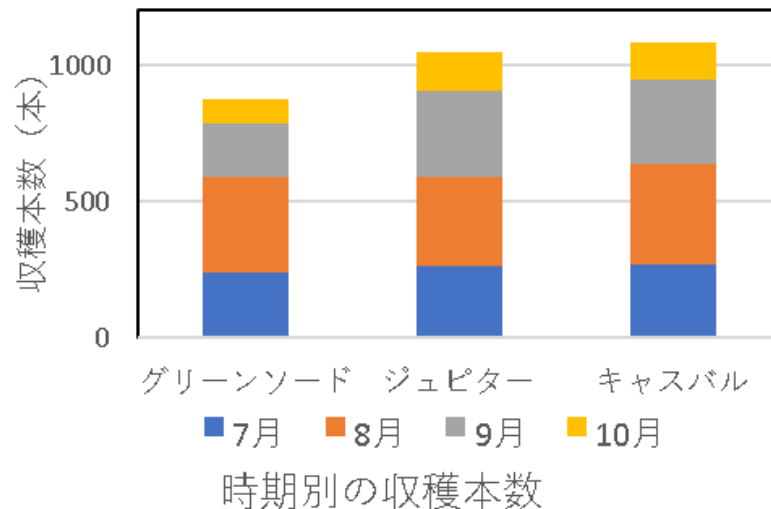
- ✓ 夏期の高温少雨により生長点に花芽しか付かない「かんざし状芽」となり樹勢が低下する事例が頻発
- ✓ 高温少雨下で安定した収量を得られる品種を検討するため、複数品種の比較栽培試験を実施



かんざし状芽

【現地実証】

試験品種: キャスバル、ジュピター 対照品種: グリーンソード

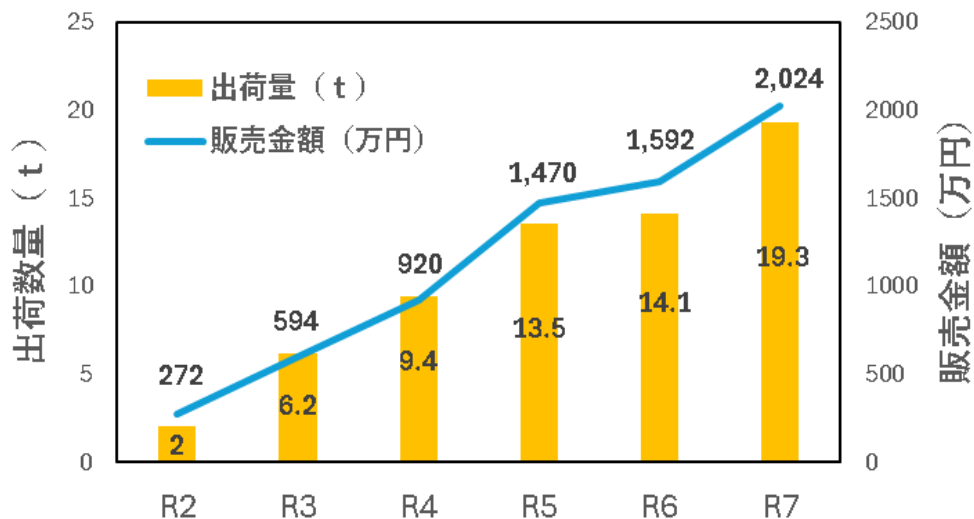


- ✓ キャスバル、ジュピターは、9月以降の規格果率が高く、多収の傾向があった
- ✓ ジュピターは高温少雨であった8月にかんざし状芽が少なく樹勢を維持できていた

これまでの取組成果

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7実績(目標)	R8目標
総出荷量	2.0t	6.2t	9.4t	13.2t	14.1t	19.3t(17.4t)	検討中*
栽培面積	24a	54a	57a	73a	85a	93a(80a)	95a
新規生産者数	2名	2名	5名	2名	5名	3名(2名)	2名

*R6に設定した目標(19t)をR7で達成したため、新たな目標設定について関係機関と検討中



京おくらの出荷量・販売金額の推移

- ✓ **いずれの指標についても
目標達成**
- ✓ ナスやネギからの品目転換を一部で実現
- ✓ 令和8年度までにさらなる生産拡大を目指す

消費者に向けた発信



企業や大学と連携した
簡単レシピの開発

簡単レシピを発信して
消費拡大を促進!

生産量が増えても
高単価を維持!

消費者向けに
生産者ほ場で収穫
体験会や
産地紹介を含めた
試食会を開催

消費者へ
生産者のこだわりと
食べ方を発信!



現在進めている取組

1 京おくら出荷部会の活動強化



生産者同士の
ほ場見学

メール等によ
る迅速な情報
発信

2 農福連携のさらなる推進



福祉事業所の職員及び農福の
活用を検討中の生産者のため
の研修会

3 グリーンな栽培体系加速化事業を活用した持続的な産地づくり



**環境負荷低減
技術の導入！**

生分解性マルチで
省力化

黄色LEDで
オオタバコガ防除



最後に



「京おくら」を全国的に知名度の高い特産品へ成長させるため、今後も関係機関と一体となって、生産者を全力で支援していきます



ご清聴ありがとうございました